



ゆんたく 都島

2021 Vol.33



Contents

理事長 巻頭MESSAGE

創立90周年を迎えて -message-

特別寄稿 見守り隊チーム「ナカネ」

社会福祉法人 都島友の会



法人創立90周年を迎えて

社会福祉法人都島友の会
理事長 渡久地 歌子

都島友の会は本年、創立90周年を迎えます。昨年来、世界に蔓延するコロナ禍、幸いなことにワクチンが開発、接種が始められたとはいえ、今後どのような推移をたどるかはまだ分かりません。その意味では日本はまだまだ国難の中にあるといえます。法人の歴史、90年という長い時を思い起こせば現在のコロナ禍に比する、いやそれ以上の困難な出来事は多々ありました。1930年代の世界大恐慌、太平洋戦争、大阪大空襲による園舎の全焼、終戦、そして戦後の混乱……。これまで幾度も紹介したと思いますが、法人の創設者、比嘉正子はいわば20世紀という戦争と波乱の時代を艱難辛苦の末、乗り越え、生涯のテーマであった社会福祉の理想と共に駆け抜けてきた人物だったと思います。そして彼女の思い描いた福祉理念は、現在の都島友の会の中にも受け継がれて来ています。

1905年 沖繩で誕生
幼き頃通った日曜学校で巡りあった永田ツル子園長、スミード、上原カメ先輩たちと直接的、間接的にも人生の出会いが始まる

1949年 大阪府より保育の復旧指令
敗戦により日本の人々は、亡くしたものの新しきものを目まぐるしい変化の中で生きていく
新憲法に基づき福祉の見直しの中、家庭を守る女性たち、主婦たちと共に乳幼児施設、保育所、病院づくりへと歩み出し、その活動は43年後、88歳まで続きました

1923年 大阪ミッド神学校へ入学(17歳)
大阪市立北市民館へ出入りするうち、志賀志那人館長と出会う
北市民館保育組合の保母となる(20歳)
結婚を機に退職(23歳)(その後、3名の子に恵まれる)
志賀先生より都島で、幼稚園を作るよう指示を受ける(26歳)
この頃の日本は中国との武力紛争、満州事変などにより、戦時色が強まる中ではあったが、園児数は増えていく
1月、2月、病気で愛児(長女長男)を相次いで亡くす
大阪府より幼稚園の閉鎖命令。3月7日戦前最後の卒園式(45歳)
8月広島、長崎に原爆が投下され、太平洋戦争終結
日本の敗戦となる。大阪も大空襲に遭い、都島も焼け野原となり園舎も焼ける

縁は異なるものゝ比嘉正子との出会い、
恩人たちとの出会い
比嘉先生(あえて当時の呼び方でそう書かせてもらいます)との出会いは、ほんの偶然のようなものでした。人からの紹介があり、訳も分からないうちに、「家に来なさい!」(当時比嘉先生のお家にはご主人と二人きりでした)と比嘉先生の家に住むことになり、4、5カ月が経って大阪にも慣れた頃、都島診療所(都島病院)を手伝いなさいということで今度は寮に入り、診療所に勤めることに。都島診療所は戦後、比嘉正子が敗戦後の荒れた社会の中で、病は無知や貧困が病魔を広げることから、子どもたちや家庭、主婦を守っていくた

め立ち上げた低所得者支援のための病院でした。一時労働争議で閉鎖したのですが、診療所として再開していました。

低所得者支援 都島病院開設
社会情勢の渦の中、福祉理念における職員間との相違、労働争議で閉鎖
生命を守る信念はまだ残っており、建物を都島診療所として一部復活
比嘉正子との出会いから都島診療所職員として勤務することになる

薬品名、病名も覚え、衛生管理(清潔、不潔)、消毒など、どんどん出来る事が増えていきました。保険の有無等から患者さんの社会的立場や生活状況を知り、都島保健所、都島区役所の国民保険係、福祉事務所、住民係とつながり、さまざまに教えてもらうことも多かったです。
道端で行き倒れた住所のない人たちの処遇をどうするか。入院では誰が保証人となる? 退院後は? 治療費の問題、医療券という制度、そこから民生委員さんとの接点、大阪自強館(シキョウカン)とのつながり、住宅問題から市営住宅や府営住宅の申請手続きも覚ええました。低所得者支援の病院とはいえ、収入と支出のあり方、職員処遇や医療整備の問題……。善意や理想だけでは成り立たない現実を知り、『経営』というものの大切さを学びました。患者さんを通じて学んだことも。患者さんが玄関に入つてこられると一人ひとり名前が浮かぶ。人様の名前を覚えることが得意である事が功を奏し、親しくもなっていました。カルテを出し、「どうされましたか?」「お大事になさってください」の声掛けにつこりと笑みを返していただいていた。外でお会いしても挨拶することを大事にしてきた。挨拶や他愛のない会話……。それが人と人との、地域の皆さんとのつながりを大切にすることに繋がっていました。

病院建替担当(建替えることについて何も知らされず)
都島病院新築
病院経営には諸々の届け出、資格が必要。都島保健所、大阪府庁へ日参したものだ。9月結婚
7月、長男出産
9月、生後1ヶ月の我が子を都島乳児保育センター保育室に預け、事務所勤務となる

福祉の道、保育の世界に入る

診療所では何でもしました。受付、会計、薬局、看護婦、給食、掃除などの手伝い……。すべてが知らないことばかり、そしてすべてが目新しく面白い。私にとっては、「なるほど!なるほど!」の学びの世界でありました。もちろん知らないことだらけでしたから、一つ一つ説明を聞くことだけで精一杯。毎日、院長先生に叱られるながら「そうなんだ!」の世界で、他の人たちから「大変だな」と同情され、泣きましたが、今振り返ると、叱る院長も大変だったことは後にしてわかる。この時の慰めは唯一、幼友たちの「元氣か? 頑張っているか?」とのさりげない言葉。時折、顔を見せてくれたり、電話や手紙をくれたり……。懐かしい思い出です。病院の院長(勤務医)と比嘉先生が、立場の違いからぶつかり、難しい問題も起きました。その際、阪大の第一内科、整形外科の先生方にお願ひに伺ったりもしました。その頃の出会いが50年、60年経た現在も続いているのも不思議なご縁です。

そうした病院での経験や医療への関わりを通して、自分が困難な人に差し延べられること出来ることは何かを考える糸口になり、乳幼児から高齢者、地域の皆さん、職員、様々な方々への向き合い方、対し方の礎となり、その中で育まれた思いが、私の「福祉」に対する原点になったように思います。

昭和40年代以降、女性の社会進出が増え、しかし0歳児保育はまだ行われていない時代、法人は国の実験的開拓事業として先駆的に0歳児保育を行っていました。1970年9月、国の監査を受け、乳児特別対策費として保母加算がつくか否かの瀬戸際、当時病院から保育所事務に移った私は保育所の収支業務が解らず、先輩の先生たちの指導で何とか無事監査を終えることができました。その頃は乳児室にわが子を送り届け、事務所勤務をしながら園長や主任保母の手伝いをし、保育のあれこれを学んでいた毎日でした。中でも印象深かったのが0歳児の我が子を「措置児?」と呼ばれる違和感。社会福祉の措置委託制度ではそう呼ばれるのですが、そこから措置制度の意義や必要性、措置費の仕組みや内容の勉強を始めました。

やがてカルテ整理、レポート請求、治療内容や

比嘉先生は保育に関して(職員や子どもたち、保護者に向けて)一番良いものを提供することが地域貢献であることを旨とされてきました。保護者の肩の荷を一つでもおろすにはどうすれば? おしめや布団はどうする? など、私にも一つひとつ

保護者の労力を軽減するための細やかなアイデアを求められます。その際、同年齢の保護者に意見を聞き、会話を重ね、親しい関係が作られていきました。現在の「ママ友」になるのでしょうか、その頃、共に会話を重ね、子どもを育てていた人たちのつながりは、50年経った今も私の宝ものになっています。

労使対立の時代、園長へ。

そして法人経営の道に――。

1973年	1976年
建設担当をした都島病院が経営困難により閉鎖 その建物を乳児保育待機児解消のために都島第二乳児保育センター開設。改修工事担当を兼ねる	都島児童センター勤務。法人の幼児保育、障がい児保育、学童保育を学びながら、保育施設の運営に携わる

当時の日本は左翼運動が激しく労使関係も緊張をはらんだ時代でした。都島第二乳児保育センターでも、職員一名、あまりにも勤務態度が悪く退職してもらった。2カ月後、その職員が労働組合に駆け込み、軽頸腕症候群、腰痛など職業病を訴え、労使紛争が起きました。組合との団交、裁判などで3年間、保育業務は空白となり、その間、労務の勉強、裁判資料やその書類作り、弁護士との話し合いなど、子どもを寝かした後、徹夜もしばしばといった毎日を送ることになります。

また法人では保育施設が増加拡大し、環境整備等の整理を行う中で、保育内容、職員採用、職員処遇、経理など法人としての統一化を図らねばならず、そこから各施設長との軋轢も生じ、様々な非難を浴びましたが、何とかそれを乗り越え、法人の組織強化や現在の法人本部へとつながる基礎作りを進めていきました。

2011年～2021年 80周年終了後、本部が中心となり、都島児童センター建替、隣接地の購入、友渕児童センター増改築(No.1)、ひまわりネット(子育て、障がい、介護何でも相談室)開設、城東区に保育児童センター開園、大阪市より都島東保育園建物取得、都島桜宮保育園増改築、友渕児童センター園舎改修(No.2)、都島児童センター運動場用地購入、特養の全館改修、および地域交流のためのひまわりカフェの併設、都島第二乳児保育センター園舎改修、ひがみや児童センター・それいゆ新園舎建設、都島乳児保育センター新園舎など、次々と90周年に向けて、大きな環境整備を計画、逐次、行っていました。

またリクルート対策や職員の働き方改革、変形制労働時間制の採用、保育内容の充実、保育ママ事業、つどいの広場、居宅介護支援にも着手し、かねてから政府がおし進めていた日本の幼児教育改革、幼保一元化の政策に合わせて、都島、友渕、桜宮、成育、都島東(現在・ひがみや)各保育園がそれぞれ幼保連携型認定こども園へ移行していきま

難を浴びましたが、何とかそれを乗り越え、法人の組織強化や現在の法人本部へとつながる基礎作りを進めていきました。

1981年	1983年
鐘紡(株)の跡、日本住宅公団の友渕街づくり事業の二つ保育所新設を受け、建設担当を受ける	都島友渕保育園園長に就く

友渕地域の高層住宅街に新設された保育園で園長就任は私のこれまでの経験や学び、その二つひとつを積み上げていくようなものになりました。その二つが子どもの主体性を大切にする保育への見直し。子どもに「させる」から子どもが「する」への転換でした。園長をつとめた間、都島友渕保育園は街の発展と共に園児数も70名↓90名↓120名↓150名と増え、園舎も増改築していきます。(この10年間は、一番穏やかで楽しい日々であった。今はその時育った子どもたちが親になって帰ってきてくれている)。

1984年 園長兼、法人理事を受ける
組織も大きくなり、理事の先生方の強力なバックアップで法人経営を学ぶ。

1990年 大阪市はJR桜ノ宮駅近く国鉄貨物駅跡を、医療、保育、高齢者施設を備えた新しい街として開発。当法人がその保育部門を受け持つことになり、建設担当を命じられる

1991年 都島桜宮保育園園長を兼ねる
比嘉理事長(87歳)は高齢のため体調不良。仲田

ある教育と保育を両輪としてきた福祉的幼稚園の姿に戻ったのだと思います。その間、都島児童センター竣工一周年記念には下村博文文部科学大臣(当時)講演会を開催、ひまわりネットは比嘉正子地域貢献事業研修センターとして発展的に生まれ変わり、職員たちの自主研究は日本保育協会から実践奨励賞を受賞するなど、自慢したくなることもありました。

2021年 人々に、地域に、感謝を込めた90周年へ

法人の90年、その中で私の半生ともいうべき法人とのかかわり、その中で私の想い、行ってきたこと感じてきたことを駆け足で書いてきました。もちろん書き足りないことだらけです。ただこうして振り返れば、よくぞここまでやってきたなと思います。もちろん私一人で成し遂げられたものではありません。比嘉先生、仲田先生、多くの方々との出会いや教え、大勢の皆様を支えられ、助けがあったからこそ成し得たことばかりです。私も喜寿を迎え、体力も衰え、コンピュータ、AIなど分からないことだらけ……。どんどん私の能力ではついていけなくなってきた。しかし辛いことに良き人材に恵まれ、理事、評議員、その他役員の皆様、職員はもちろん、保護者、ご家族、利用者の皆様、そして地域の方々、多くの法人を支える人たちの力で、法人はお陰様で無事90年を迎えることが出来そうです。

この秋には90周年を祝う式典や行事も計画しております。その際には、法人がこの地で、都島の

貞子理事長代行の補佐を担う

1992年 11月、比嘉理事長逝去。仲田貞子2代目理事長就任。

1993年 都島児童センター園長兼常務理事に就く

創設者を亡くした混乱は予想以上に大きく、混乱が収まるのに、数年かかった。(人間関係、考えの違い、裁判etc) 様々な方々に助けて頂きながら、一年一年を乗り越えた。

都島友渕乳児保育センター開設。

1999年 友渕地域デイサービス開設。
土地は鐘紡(株)が大阪市へ寄付。措置制度による開設であった。都島区連合会長はじめ、皆さんの力強い支援を受ける。

2001年 高齢施設建設計画 大阪市へのプレゼンテーションを経験

2002年 東都島地域、西都島地域役員の皆さんのバックアップもあり、「特別養護老人ホーム ひまわりの郷」開設。入居者は大阪市全域からであったが、都島で生まれ育った人々が法人による高齢施設を待ち望んでおられ、入居者の中には昭和6年の青空保育に携わった方々もおられた。

2006年 仲田貞子理事長、体調不良により、3代目理事長職を受ける

人たちに支えられ社会福祉の道を歩みだした原点に立ち返り、今後法人がよりいっそう地域貢献できる法人となるよう、その誓いと決意と共に、地域や地域の方々への感謝を込めたものにしたと考えております。つなぎつないで、今度は100周年へ。そのスタートは人々への心からの感謝から始めたいと思います。



90周年を迎えて

園長メッセージ

都島児童センターは、この10年間で様々な変化を遂げ、園舎の建て替えや『子ども子育て支援新制度』により、平成27年4月、幼保連携型認定こども園として新たにスタートしました。幼稚園と保育園の機能を併せ持つ園としてどのように教育保育を進めていくのか、今まで保育の中に含まれていた教育的要素を見直し、活動を通して子どもたちに何を育みたいのかを明確にし、目標を持って教育保育に取り組んできました。当法人では、様々な特別活動を行っています。音楽・英語・プログラミング等、専任の講師に指導してもらい、日々の活動の中に取り入れながら、法人の教育保育目標『よく見 よく聞き よく考える 仲間とともに育つ子ども』のもと、たくさんの方たちや職員との関係の中で様々な力を身に付けています。課外クラブも盛んで、ピアノ・英語・体育・チャダンス・習字・モダンバレエ・絵のクラブ等を園内で行っています。

また、働き方改革として、職員間で意見交換を重ねながら職務内容の見直しや改善を行い、職員の働きやすい環境づくりを心掛けてきました。最近では、結婚・出産を経て活躍している職員や、ブランクから現場復帰した職員も増えていきます。

昨年は、全世界において新型コロナウイルス感染拡大が起きました。私たちの仕事子どもたちと密に関わらざるを得ない状況を考えると様々な場面で矛盾と向き合い模索しながら教育保育に取り組んできました。

今年、創立90周年を迎える都島友の会は数多くの施設を抱える大きな法人です。各園が切磋琢磨しながら施設を運営し、情報を共有し手を携えていけることが強みでもあります。

今後も各園が連携をとりながら法人を盛り立てていくことができると考えています。

人と人とのつながりを大切に、都島児童センターが地域の中で求められている役割は何かを考え、未来を支える子どもたちの健やかな成長を育んでいけるよう、時代と共に新しいことに挑戦しながら「ふるきをたずねて新しきを知る」という姿勢を大切に、職員一体となつて取り組んでいきたいと思えます。

プレハブの園舎は、冷房がなかなか効かずだれを掛けたり、雨の日は水をけを良くするためビニールシートを敷いたり工夫しました。保育室が対面になっていたのでもすぐに他学年と交流ができる環境であり、広々とした中庭で色々なあそびや行事を楽しんでいました。



2013年8月～2014年8月
仮園舎



餅つき大会



1972年～2013年8月
旧園舎 都島保育所（都島児童センター）



人工芝の広場

室内には「オーラポート」と呼ばれる部屋があり、船の形をした遊具は子どもたちに大人気！日当たりの良い人工芝では、裸足で遊ぶことも出来ます。室内、戸外共に子どもたちはたくさん身体を動かして遊んでいます。



オーラポート



2014年8月～現在
名称改め、3代目園舎
幼保連携型認定こども園 都島児童センター



ひまわり畑

実は…初めは薄ピンだったのですが、アルして可愛い動物たちのイラストが描かれ園内には、都島友チーフである「ひまわり」がたくさん咲いていました！



園長
丸山 智子

子ども時代の都島児童センターでの一番の思い出は？

西垣：担任の先生が手を広げて毎日笑顔で受け入れてくれたことが思い出です。また、お世話になった先生が当時のように変わらず受け入れてくださる嬉しさを感じています。

服部：広い園庭で、友だちや先生と一緒にだんごむし探しを楽しんでいました。



にしがき
西垣ゆきの先生
平成 16 年度卒園



山口：子どもたちの主体性を大切に、どんな環境であつても子どもたちの「やってみたい」を実現できるように、職員みんなで一緒に考え、子どもと共にみんなで楽しめる教育・保育を実践していきたいです。

都島友の会は90周年を迎えますが、これからどんな園にしていきたいですか？

都島児童センターで育ち、都島児童センターで働く 次世代を担う職員たちへ、インタビュー！

自分の育った場所で働き始めてどうですか？

服部：旧園舎のひまわり門やキリンの大きな壁の絵を久しぶりに見られると楽しみにしていました。が、働き始めた頃はちょうど建て替え工事中…ですが、改めて進化し続ける友の会はすごいなと感じました。

山口：ずっと憧れていた友の会のエプロンを着て、担任をして頂いた先生と一緒に仕事が出来るのがとても嬉しいです。様々な視点からの学びを得ることが出来る、やりがいを感じています。



はっとり あいこ
服部愛子先生
平成 10 年度卒園



最後に一言お願いします。

服部：子どもたちの成長を一番近くで見守ることが出来る保育教諭の仕事に誇りを持って、日々精進していきます。

西垣：お世話になった先生方のように温かみのある保育教諭になりたいです。

山口：笑顔溢れる子どもたちと毎日充実した時間を過ごし、「保育教諭」という仕事に誇りを持ち頑張っていきたいです。

To the next stage!!
幼保連携型 認定こども園
都島児童センター



やまぐち あきほ
山口晃穂先生
平成 13 年度卒園



園長メッセージ
90周年を迎えて

早いもので、中之島公会堂で行った盛大な80周年式典が、つい先日のように思い出されます。あれから10年：友渕児童センターには変わらず子どもたちの元気な歌声、にぎやかな笑い声が響いています。

保護者の皆様や地域の皆様に支えられ、和やかな日々を過ごしてこられたことに感謝しながら、90周年に向けてのスタートを切った令和2年度。新型コロナウイルスの流行といった誰も経験したことのない大きな危機に直面しました。

子どもたちの安全を守るために保健衛生を一から見直し、また、今までの積み重ねてきた保育教育を守つていこうと、職員一同、知恵を出し合いこれまで以上に団結した1年となりました。

大きな危機に直面したからこそ改めて感じた友渕Power。「子どもたちへの果てしない愛情」と「教育・保育への情熱」。これから90周年を迎えますが、職員一同、一致団結し、今までと変わらぬPower溢れる友渕児童センターであり続けたいと思います。

園長 吉本 希



つながりつないで

90周年を迎えるにあたり、これまでを振り返ってみました。都島児童センターで教育保育の基本を教えてもらい、都島桜宮保育園（現桜宮児童センター）では子どもたち、保護者、地域の皆様からたくさん愛情をいただきました。そして現在の友渕児童センターでは職員一人一人が個性を生かしながらOne teamで取り組む楽しさを感じています。

異動の度に原点に立ち戻り、保育って？教育って？どんな保育教諭になりたい？と振り返るいい機会となっています。愛されている充実感と何でもできそうという根拠のない自信を育む「保育」「レールの上を歩く力より転んでも自分で立ち上がる力と歩む力を育む『教育』」。今まで出会った一人ひとりの子どもたちに、この思いが少しでも届いていればと思います。そして各々の園で出会った方々の温かさを忘れず、これから出会う人につなげていける、そんな保育教諭でありたいと思います。

副園長 李 美和

数えきれない程の感動と発見、そして出会いが、自分を人として成長させてくれました。その場所が都島友の会だったのです。人の心の成長にとって、本当に大切なものは「経験」。周りの人に支えられながら公私共にたくさん経験をさせていただきましたが、すべて今の自分に繋がっているのだと感じました。子どもたちはこれから生きていく上でたくさんさんの経験を通して、思いやる気持ち、誰かの支えとなる喜び、失う悲しみ、達成した時の嬉しさを心に蓄えていくのでしよう。子どもたちには無駄な一日はないのです。1年の成長はとても大きく、私たちはその人生の一部に大きく関わっているのですから、責任は重大です。何十年も受け継がれてきた都島友の会の先輩方の教えをまた次の世代へ引き継ぎながら、時代のニーズと共に、新しい風を通していききたいと思えます。

主任 林 大介

友渕児童センターのあゆみ

1歳児モモ組担任 中西 愛子

時代のニーズに合わせてどんどん大きくなってゆく友の会ですが、以前先輩から教えてもらって今でも心に留めてある言葉…。古きを訪ね新しきを知る。まさしく友の会そのもの！新しいことを取り込みながらも先代の想いもつなぎ、つないでいるんだなと感じています。私も、若い後輩の気持ちに寄り添いながらも古き良きを伝えながら、友の会の一員として今後も邁進していききたいと思えます。



本多 奈々

幼い頃、大好きな保育園の先生がいました。園長（延長）保育にもあこがれていました。今も園児と先生方の繋がりを思っていると、あの頃を思い出してほっこり/今では友渕児童センター内でピアノLESSONをさせていただきます。



大野 晴香
(旧姓：中村)

自分も過ごした園で安心して子育てしています！



溝延 紀子
(旧姓：宮本)

親子でお世話になったことを感謝しています！これからも益々のご発展をお祈りしています！



梅垣 享子
(旧姓：前田)

親子2世代でお世話になっていきます！



内倉 悠子
(旧姓：木場)

親子2代で通って幸せです！友渕児童センター最高！



前田 優樹

親子共々、保育園生活たのませていただいています！



山坂 佑介

親子共々、お世話になっていきます！



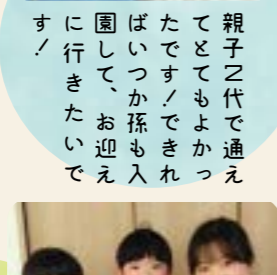
秋山 敦士

自分の子が、今後はお母さんとなって、帰る場所であり続けてほしいと思います！



清水 さやか
(旧姓：新田)

保育園の頃にしたマーチングが思い出深いです！娘のマーチング姿が今から楽しみです！



船附 瑞歩

親子2代で通ってとてもよかったです！できればいつか孫も入園して、お迎えに行きたいです！



井川 由未
(旧姓：遠藤)

かつて私も着ていたブルーのセラー服を着て元気いっぱい園生活を楽しんでる息子たちの姿はとても感慨深いです。子どもたちの成長をいつも一緒に喜んでようこんでくれる先生方が親子共々大好きです。

2020年

階段横に水族館を施工

2018年

4月 園舎改修工事
仮設園舎生活スタート
7月 改修後の園舎で生活を開始

2015年

幼保連携型認定こども園へ移行し友渕児童センターへ改称

2012年

北側園舎改修工事

1983年

社会福祉法人 都島友の会
都島友渕保育園 創設



成育児童センター

キラキラランド (発表会)

1人ひとりの個性がキラキラと光ったキラキラランド。当日の観覧ではなく各ご家庭でお楽しみいただけるように1枚のDVDにして配布しました。



DVDの表紙イラストは職員が描きました

令和2年度園目標

みんな一緒にキラリンパ ~きみのキラキラみつけた~
一年間のたくさんのキラキラをご紹介します



祝☆創立10周年 since 2010.9.1 ~ 2020.9.1

創立当初の園児・職員



成育児童センターにわくわくする新エリアが増えました!

『わくわく水族館』がオープン!

当園は令和2年9月に創立10周年を記念して、玄関に水族館(飾り棚)を設置。たくさんの海の仲間が飾られています。



創立当初から大人気
総合遊具『わくわくとりで』

創立当初から子どもたちが大好きな総合遊具。すべり台・ロッククライミング・ファイヤーポール等楽しみながら体を動かしています。また、わくわくとりでの下は子どもたちの大好きな秘密基地になったりお店屋さんになったりと大人気!



イルミネーション

12月上旬に園の正面玄関と園庭南側にイルミネーションを飾りました。早く見に行きたくて登園・降園時間になるとそわそわし始める子どもたち…。楽しみがまた一つ増えました!



令和2年度の園児・職員



都島友の会は令和3年3月1日で創立90年を迎え、成育児童センターは令和2年9月1日で10年を迎えました。この10年間で保育園から「幼保連携型認定こども園 成育児童センター」になりました。初年度50名だった園児も平成24年度には90名になりそれ以降は90名を下回ることはありません。また、平成28年度には大阪市地域子育て拠点事業として『つどいの広場 フレンドリーせいく』が開所しました。園児だけでなく、未就園のお子さんや保護者の方を援助する場ができました。成育児童センターは法人の中で1番新しい園です。法人各施設のように地域に根差す園になりたいです。

園長
島元 真紀子



親子でキラリンピック

0歳児・1歳児のキラリンピックは親子で参加!園で過ごすおさんの様子を上映...家とは違った様子に驚かされている場面もありました。園庭ではキラリンと一緒に体操をしたり、親子で好きなあそびを楽しみました。

キラリンピック(運動会)

第11回運動会として行われたキラリンピック。例年では蒲生中学校の体育館をお借りして行っていたが、今年度はコロナウイルスを考慮して、屋外での開催となりました。晴天の中、取り行われたキラリンピックは子どもたちの笑顔と汗がキラキラと輝いていました!



園長メッセージ
90周年を迎えて

平成3年に「都島桜宮保育園」として開設、平成31年4月には保育園と幼稚園の機能を併せ持つ「幼保連携型認定こども園桜宮児童センター」に移行、当センターは今年創設30周年を迎えました。創立90年という歴史ある法人に勤務していることに誇りを感じつつ、その重みと伝統を感じながら、桜宮児童センターの園長となつて今年の4月で3年目。職員や子どもたちとともに成長させていただきました。

桜宮児童センターが創設以来、諸先輩から引き継ぎ大切に行っていること。"人としての基礎をつくる"乳幼児期に、子どもたちの五感をのびやかに広げ、子どもたちの豊かな感性を育むこと。ゆつたりとした愛情と環境の中で信頼関係の基礎を育て、豊かな心・自我の芽生えを大切に子どもに興味・好奇心を育む。人とのかわりの中で、自分の気持ち、相手の思いに気づき、遊びの中で色々なものを見たり聞いたり肌で感じたりして多くのことを学び、吸収する。さらに幼児期には体育活動・音楽活動・英語活動・プロダラミング活動など各分野の特別活動で豊かな表現を身につける。様々なことを経験・挑戦する中で自分を発揮し小さな成功体験を重ねることで生きる力の基礎となる「心情・意欲・態度」が培われます。

0歳から就学までの一貫した教育保育で、子どもたちの成長を保護者の皆さん、職員とともに地域の方々にもお力添えをいただきます。また子どもたちとともに自分自身も成長できるように。楽しく過ごしていきたいと思っています。



園長
岩本 真弓



都島区の待機児童解消のため、平成29年に都島神社に近い場所に都島桜宮保育園分園を開設。また翌平成30年には、本園も増改築しました。また幼保連携型認定こども園に移行し、1号認定の家庭の受け入れも可能となり、より幅広い層の保育が可能となっています。

今年法人設立90周年の年とともに、当園が開設されて30年の記念の年ともなります。初代の比嘉理事長がこ都島の地において青空保育園を始めたことから都島友の会の歴史が始まりました。当園は平成3年に比嘉理事長の保育事業歴60周年を記念して開設いたしました。



これから先
100周年に向けて

100年という大きな節目に向かって新たに進んでいく中で、桜宮児童センターの特色・強みを振り返ると、食育に力を入れてきました。その強みを活かし、次は子どもたちと一緒に土づくりから取り組み、肥料や水の量なども含めて1からの栽培に挑戦していきたいと考えています。野菜や花の栽培を通して、生長の気付き、収穫の喜びや1つのことを通してやり続ける達成感など、かけがえのない経験もより味わっていききたいと思います。

90周年を迎えて
職員の想い

関伽井 雅子
【勤続20年以上】

最近「負けんとき」という本を読みました。大正から昭和にかけて幼児教育を手掛けた方のお話で、本を読み、初代の比嘉理事長のことを思いました。0からのスタートで大変な苦労と様々なアイデア、工夫で幼児教育を広めてこられたから90年と思うと感慨深いです。このコロナ禍でも様々な工夫を凝らしてきましたが、初代理事長の努力に少しでも近づけるよう保育にあたりながら、次の10年に向け、また次の世代に繋げていきたいと思っています。

山下 桃香
【勤続10年以上】

この10年間で地域の方々との様々な交流が増えていき、子どもたちだけでなく自分自身もたくさんを経験させていただきました。イベントの場だけでなく、散歩などでお会いしても声をかけてくださるなど、地域の方々に温かく見守っていただけていることに感謝しています。現在はコロナ禍で、その交流さえ難しい現状ですが、また今までのように地域の方々との繋がりを持つことができるような年にしていきます。

木浦 楓花
【勤続1年】

小さい時から保育士に憧れており、担任の先生のように優しく抱きしめ、時には厳しいそんな先生になりたいと思っています。また理事長先生や諸先輩方の話を聞き、今まで築き上げてこられた歴史・文化に触れ、私も友の会の一員として小さい時からの夢を叶えたいです。日々、子どもたちに元気をもらうと同時に子どもの命を守っていく責任の大きな職業であることを感じつつ、90周年を迎え、100周年に向かって子どもたちと一緒に私自身も成長していきたいと思っています。

都島友の会の理念の中に『温故知新』という言葉があります。この四字熟語は私が学生の頃、顧問の先生の解説がとても印象に残っていて就職し偶然にもこの言葉に再会し懐かしく思ったことを覚えていますが、新しいものに溢れている昨今、この『古きを訪ねて新しきを知る』がより大切な言葉に感じます。

友の会の長い歴史は只々、続いたものではなく代々大切とされた法人理念や教育保育など伝え続ける『信念と努力』、新しいことも率先し取り入れる『柔軟さと勇氣』を地域や子どもたちに発信することが友の会の職員に受け継がれているからだと思います。

今後も見極める力を持ち、これらのことを生かして地域や子どもたちのより良い発展と成長に繋げていきたいと思っています。

90周年という節目と一緒に祝い祝えることをとても光栄に思い、また今後迎える大きな節目の『友の会100周年』を楽しみにしています。



園長 瓜坂 容子
平成30年9月～令和元年12月

昭和51年6月～平成30年8月



旧園舎
春には桜がきれいだったね



仮園舎
狭いながらも楽しかったね



新園舎
近代的な建物が印象的!

令和2年1月～現在

令和2年度 コロナ予防に対応した取り組み

近隣の方に子どもたちが遊戯を披露しました。ソーシャルディスタンスをとりながら見ていただけよう、玄関前や南側の園庭で行い、道行く人にも足をとめて見ていただきました。



例年は園内に作品を飾り、お迎えのときに親子で見に来て楽しんでいただいていたのですが、令和2年度は、玄関前や園庭側のフェンスに飾りました。戸外

でゆっくり密を気にすることなく作品鑑賞を楽しんでいただきました。



勤労感謝の日には子どもたちがスレセントを製作して、地域の病院等に渡しに行っているのですが、令和2年度は担当が代表して渡しに行きました。「いつもありがとうございます、お仕事頑張ってください。」子どもたちの言葉も届きました。

地域との交流

ひがみや祭り

平成26年から始まった地域の祭り「ひがみや祭り」にゲームの店を出店しています。園も協力して祭りを盛り上げています!



入園を祝う会

東都島第3町会の清掃に職員が参加しています。ゴミを拾いながら地域の方と会話をするなど、交流を深める機会にもなっています。



地域交流会

東都島地域の老人クラブとの交流を行い、年1回、園に招待して子どもたちと昼食まで一緒に過ごします。より身近な交流の場となっています。



福祉会館訪問

東都島福祉会館における食事提供事業の参加依頼を受け、子どもたちが定期的に福祉会館に訪問しています。食事後のつかの間のひと時に、子どもたちの踊りや手あそびなどを披露して交流を持っています。



東朋病院 待合室

2ヶ月ごとでクラスを変えながら子どもたちの作品を飾っています。病院の方や利用されている方に見て喜んでもらうと共に、「ひがみや児童センター」を知ってもらうことにもつながっています。

今も昔も地域に根付いています

夏の収穫

桜通り商店街にある美馬商店さんから、夏野菜や冬野菜の苗を今まで何度もいただいています。野菜の生長過程を観察するだけでなく、収穫する喜びや、クッキングをして味わう喜びを子どもたちは経験しています。



トマト



いろいろな冬野菜

都島友の会が90周年を迎える中でひがみや児童センターは、地域とのつながりを大切にしながら45周年を迎えました。45年の間で大きく変わったのは園舎と園名です。平成30年から新園舎の建て替えが始まり、プレハブの仮設園舎で保育を行いました。令和元年度に新園舎が建ち、同時に園名も変わりました。慣れ親しんだ「都島東保育園」が「ひがみや児童センター」となり、当初はとまどうこともありましたが、しばらくすると、地域の方にも覚えていただきました。今後も地域に根付いた園としてアピールをしながら、4月から幼保連携型認定こども園として子どもたちの健やかな成長と健康を皆さんと共に守ってきたいと思います。

沖繩 渡保育園・松島保育園



地域清掃

5歳児の子どもたちが、近くの公園をきれいに清掃しました。



モノレールに乗って

松島保育園では、モノレールを使い移動手段として利用していましたが、コロナ禍で出かけることが出来なくなりとても残念です。



子育てサロン

はじめての子育てで離乳食の作り方を教えてもらっています。



運動会

行事が早くできるといいな～



発表会

別館みわらびでは、無観客でのDVD撮影で2歳児～5歳児までの子どもたちが、ホールで発表会を行いました。

MATSUSHIMA



デイサービス訪問

おじいちゃん、おばあちゃんの前でエイサーを披露して喜んでくれました。

90周年を迎えて 職員の想い

松島保育園

宮城 紗奈 (1年目)



転居を機に北部の保育園から松島保育園で働く事になり一年が経とうとしています。90年という歴史のある都島友の会の一員として学ばせてもらう事は日々多く、保育士の大変さを痛感しております。ですが、それ以上に子どもたちから得られる癒しやパワーの方が大きく、先輩方の力も借りながら保育士としての仕事に誇りを持ち努めています。これからも保育者として、子どもたちの成長に喜びを感じ、一緒に居続けたいです。

渡保育園

三宅 萌 (1年目)



この先も毎日の発見や学びを大切に、保育へ活かししたり、子どもたちと目線の高さを合わせ、互いに気持ちの通い合うコミュニケーションを心掛けたいです。

昨年春に大阪から沖縄に越してきて、保育士一年目がスタートしました。初日に会った女の子に「先生、かんぶーして！」と言われ、「かんぶー」が何かかわからない私の戸惑う姿を見て、近くにいらっしやった先輩が「髪を結ぶことだよ」と教えて下さいました。沖縄では髪を束ねることを「かんぶー」と言うそうで、こういった沖縄の方言が毎日飛び交っています。私にとっては、保育のことを先輩方から多く学ぶことはもとより、文化の違いでも、新しいことを子どもたちから知る日々を過ごして、とても充実しています。



「健康で明朗な子ども」、「物事をよく見、深く考える子ども」、「何事も根気よくやり通すことのできる子ども」など、創設以来大切にしてきた保育目標に基づいた保育を今もしっかりと継続して取り組んでいます。

松島保育園

園長 東里正江

松島保育園は、法人創立50周年記念事業の一環として、昭和57年4月1日那覇市古島(現・松島)に開園し、今年で創立40年という節目の年となります。



90周年を迎えて

園長メッセージ

園長東里正江
初代理事長先生、初代園長先生の熱い思いで創立した松島保育園。「やさしく思いやりのある子ども」、「心身共に健康で明朗な子ども」、「物事をよく見、深く考える子ども」、「何事も根気よくやり通すことのできる子ども」など、創設以来大切にきた保育目標に基づいた保育を今もしっかりと継続して取り組んでいます。



渡保育園

園長 伊禮明子

都島友の会渡保育園は、創設者比嘉正子先生の生誕の地に、47年前に建設されました。15年前に建替えましたが、創立から今も変わらないのは、地域に恵まれていること、城下町や石畳、大アカギ等の文化財の中にあるということが大きいと思います。首里城が消失した時は何度も散歩に行っていた年長児は悲しみ、涙を流していました。二人一人が悲しみを感じることのできる愛情深い子どもに、そして健康と成長を目指し、都島友の会の一員として頑張っています。

現在の奉神内



首里城火災後、半焼だった奉神門(ほうしんぐん)が現在では完成しており首里城が復元されるのを心待ちにしている子どもたちです。

火災直後の奉神内



石畳清掃



みんなの散歩コース石畳を5歳児が中心になり、手袋ゴミ袋を持ってゴミ拾いを張り切ってやっています。

大アカギ



鬼ムーチー由来の地である大アカギは散歩コースのひとつです。年に一度神が下りてきて、願い事を聞いてくれる樹齢300年の大アカギはパワースポットにまなびます。

WATARU



むらやーでおやつ

金城町の公民館は、散歩途中に立ち寄り休憩場所。お茶を飲んだり、おやつを食べたり、ゆっくりできる憩いの場所です。

都島友の会創立90周年の記念にあたり、まったく私事ですが、友の会の始まりと父親の生まれ年が同じ昭和6年であることに、改めて歳月を踏みしめて継続する強さを感じます。

採用が決まっすぐに、初代・比嘉正子理事長先生から「古きをたずね 新しきを知る」ことの、大切さと難しさのお話を聞きました。今、友の会は福祉関係者や地域の皆様に「過ごしてきた歳月の重さや出会った喜び」を伝える役割を持ち、その上で、これからの時代をどう乗り越えるか『新しきを知る』努力が求められているのだと思います。



園長 山口 涼子



小林：本当にびびりすぎると、集中している時あるよね！

三輪：園でいろんな事を経験しているから、子どもたちもいろいろなあそびを知っていくんですね。

三輪（2年目）：10年前から今も遊んでいる玩具やあそびって何がありましたか？
谷口：ぼつとん落としやひも通しは昔から人気。今の世代もよく遊んでいますよね。
小林：手作り玩具も多いね。マラカスやぼつとん落としは今も手作りで、潰れても作りなおしているね。

高松（正規職員から通算20年）：音が鳴る玩具も人気だけど、昔からずっと遊んでいる玩具ってやっぱり人気な気がする。レゴブロックは不動の人気だね。

谷口：指先を使う玩具って、見た目は静かな感じだけど、長い時間集中して遊んでいきますよね！

小林：手作り玩具じゃなくても、乳児センターは大切に玩具を使っているから、昔からある玩具も多いよね。

谷口：太鼓橋やプラポイント、大型レゴブロックもずっと昔から使っていますね。

高松：大事に使われているよね！

小林：太鼓橋が室内遊具にある園って珍しいよね！

高松：確かに！太鼓橋は公園の遊具という感じだね！

三輪：太鼓橋を初めて見た時は室内にある事にびっくりしました。あそびに取り入れれた時は、子どもたちは不思議そうにしました。最初は登るのを難しそうにしていて子どもが多かったです。

小林：日々、遊んでいくうちに、太鼓橋を登れなかつた子どもも、次に遊んだ時にはすいすい登れたりするよね。

高松：年齢によって太鼓橋のあそび方変えられるよね！マットを置いたり、反対に置いてゆりかごのようにしたり！

三輪：へえ！いろんなあそび方があるので、すね！

高松：今度一回やってみて、おもしろいよ！



うちの長女はもうすぐ10歳になります。10年前を思い返しても、今はもうぼんやりとした記憶しか残っていません。ただ、赤ちゃんだった娘が今の姿に成長しているのは、一日の積み重ねの証です。

私は都島乳児保育センターでたくさん子どもたち、保護者の方と出会いました。最初の数年は、子どもたちは「我が子」のように、保護者の方は「大変な毎日と一緒に乗り越える戦友」の様な気持ちで過ごしていました。娘が大きくなった今では、もうすっかりおばあちゃんのお気持ちです。



そんな毎日の積み重ねの中で、都島乳児保育センターの10年変わらない事は、「一人ひとりに合わせた丁寧な保育」だと思っています。そして、その基盤には「友の会90年」の積み重ねがあつてこそだという事を忘れずに、これからも一日一日を丁寧に積み重ねていきたいです。

小林知恵

（正規職員から現在非正規職員として通算21年）



私はこの春で友の会に就職して15年になります。若い頃はたくさん先輩や同期に囲まれて過ごしてきましたが、長い年月を経て結婚や出産などを機に友の会から離れていく人もいて、気がつけばたくさん先輩たちに囲まれるようになりました。乳児センターですと受け継がれている「丁寧な保育」はどの先輩たちもずっと口にしていた言葉です。自分も日々を振り返りながら今日はいややと関わる事で、子どもたちのあんなに良い表情が見られてよかったです。感じる事がありません。日々の保育の中で、迷った時は、先輩に相談することもありますが、私よりもっと長く働く非常勤のベテラン保育者が都島乳児保育センターにはたくさんいます。保育にこうしなければならぬという正解はないので、正解を求めるとはならず、色々な経験を参考にするという意味で非常勤職員とのコミュニケーションも大切にしています。長きに渡って引き継がれていることも、今若い職員が新たに頑張る姿も両方を大切にしながら、今後も頑張っていきたいです。

90周年を迎えて 職員の想い

2020年に就職し、勉強の毎日です。慣れるまで大変な時期もありましたが、先輩方の支えもあり、今ではやりがいのある仕事だと感じています。都島の友の会保育理念である児童憲章を遵守し、一人ひとりの子どもの発達を丁寧に援助する保育を実践していきたいと思えます。これからも仕事に誇りを持ち、更に成長できるように努力していきたいです。



中村佳音

（1年目）

谷口優奈

（正規職員から現在非正規職員として通算15年）

都島乳児保育センター

友の会が90周年を迎える令和3年、法人2番目に創立された都島乳児保育センターは55年目を迎えます。この長い歴史の中、大きく変わったことは、新園舎へ引っ越したことです。昔からの思い出のある旧園舎から離れるのは、名残り惜しくも感じましたが、新園舎へ引っ越す時は子どもたちと保護者、保育者みんな期待が大きく楽しみでした。引っ越し作業では、いろいろな思い出の品ができてきて、懐かしい日々を思い出して、楽しく作業ができました。新園舎に引っ越しし、最初は保育者も子どもたちも慣れなくて戸惑う事もありました。今は毎日、笑い声がよく聞こえ、楽しく過ごしています。

またもう一つ大きく変わった事は、2歳児クラスが新たに増えたことです。2歳児クラスが増えたことで、0・1歳児の子どもたちのお姉さん・お兄さんの存在になっていきます。真似をしたり、お世話したりと、子ども同士で刺激し合える環境です。

子どもたちの成長を見守りながら、これからも安全に保育を行っていきます。

法人創立90周年を迎えるにあたり、都島友の会の歴史の深さを改めて感じます。戦前から始まり戦時そして戦後、どんな時代の中であっても「地域に根差してこそ福祉」という創設者の思いや、保育園は次世代の担い手を育てるといふ重要な役割があるということも忘れてはならないと深く感じています。都島第二乳児保育センターは今年48年目を迎えます。

令和2年4月より0歳児クラスが復活し、在宅支援の一環として、一時預かり事業、地域子育て支援センターの充実を図りながら、建物内外の環境整備も行い明るく家庭的で、なおかつ衛生的な乳児保育専門の保育園として新たなスタートをきっています。令和3年度から3歳児の進級先となるひがみや児童センターとの交流を深めていくとともに、先輩方から教わった健やかな心身を育む乳児保育をより一層深め、地域に根差した保育園としての役割を果たしていくことをこれからも職員一同、励んで参ります。



園長 比嘉 きみ

コロナ禍での行事や生活などの変化

コロナ禍で例年行っていた行事や生活スタイルなど様々な変化がありました。職員間での話し合いの中でできる限りの工夫をしながら、子どもたちが安心して過ごせる環境づくりに日々努めています。



親子 Hokkori

コロナ禍でもマスク・消毒を徹底し形を変えて各クラスごとに保護者参加の行事を天候の心配もありましたが屋上で行いました。普段遊んでいる様子や子どもたちの関わりも見てもらいました。



月制作

例年毎月行った制作を、部屋前に飾っていましたが、園内に保護者の方が入れなくなった為、月末に持ち帰り子どもたちの作品をお家で楽しんでもらえるようにしています。

おたのしみ会

毎月行うおたのしみ会では、密にならないよう学年ごとに行っています。



90周年を迎えて 職員の想い

90年という歴史の中で、今まで様々な方々が携わり大事にしてきたことを受け継ぎ、今こうして都島友の会の一員として過ごせることを誇りに思っています。まだ1年目で未熟ですが、様々な園や施設が一致団結し、子どもたちや利用する全ての方々に対して寄り添う先輩方の姿を見て、それをしつかり受け継ぎ、行動に移して次に繋げる架け橋になれたら嬉しいですね。保育士という仕事に誇りを持ち、子ども日々の成長を見逃さず共に喜び合えるそんな保育者で居続けたいと思っています。

保育士として8年目を迎え、90周年の節目を一緒に迎えることができうれしく思います。歴史ある保育を先輩方から多く学ばせてもらって、保育の楽しさや難しさを知り、一保育士としてより知りたいたことが日々たくさんあります。子どもたちや保護者の方、一緒に働く保育士とは常々思いやりを持つことを心に留め保育しています。都島第二乳児保育センターでは乳児専門の保育ならではの温かい雰囲気の中で子どもたちの成長を保護者の方と一緒に見守り喜び合える毎日何より嬉しい瞬間です。これからも歴史を受け継ぎながらニーズに柔軟に対応し日々保育を行ってまいります。

都島第二乳児保育センター

都島友の会

2歳児クラス 福永真優 (1年目)



0歳児クラス 富田美味 (8年目)



大改造! 劇的ビフォーアフター!

こんな変化もありました!!



事務所のカウンターに新しくかわいい海の生き物が飾られています。



1階に子どもたちが遊べるキッズルームができました!

階段では、カーペットが敷かれていた時から一新して滑り止め加工の階段に様変わり。手すりも新たに、子どもたちの成長に合わせた高さに変化しました。また長い廊下は昔と変わらず、優しい温かみのある木目に変化を遂げ、より一層明るくなりました。



10年間の歩み

- 平成23年度 屋上花壇整備
- 平成24年度 地域在宅支援センターのびのびが4階から都島コーポ1階に引越す
- 平成25年度 2歳児クラスが4クラスに編成される
- 平成26年度 2歳児クラスが3クラスに編成される
- 平成27年度 「保育士間の連携について」法人内での研究発表を行う
- 令和元年度 屋上防水防漏工事を行う
- 令和2年度 窓枠サッシ取り付け、屋上防水防漏工事
- 令和3年度 玄関工事
- 令和3年度 保育室、建物内階段部分、廊下改修工事
- 令和3年度 給食室改修工事、1階職員室設置工事
- 令和3年度 3歳児の進級先は「ひがみや児童センター」となる

80周年から90周年…
あっといふ間の10年。振り返るとずいぶん前のことのようにも思えます。年齢も重ね、立場も変わりました。

『大事なものは「変わっていくこと」
変わらざるを得ない』

時代の流れに柔軟に対応しつつ、どの時代でも子どもの安全を第一に。自分の保育に対する気持ちは若いころのまま。100周年も同じ気持ちで迎えられるよう、1日1日を大切に保育していきたいです。

都島友渕乳児保育センター・友渕児童センター分園では、個々の長所を活かしてチームの能力を最大限に引き出し「チームワークの向上」を目指して、これからも前を向いて進みます。

90年という歴史があるので、福利厚生などが、しっかりしていて嬉しいです。都島友の会で働いていると、地域とのつながりを強く感じられる。それが90周年という長い歴史をもつ秘訣であり、一番の魅力であると思う。また、運動会や発表会を通して他園の様子を知ることができ、自分自身の成長につながり、日々勉強になっています。

90周年という長い歴史の中の出来事を教えて頂き、多くの先輩方から受け継がれていることを知りました。改めて、自分の保育を見直し、より良い保育が行えるよう、技術を磨いていきたいです。

つなぎ つないで

10年以上勤め、良いことや悪いこと、悔しいこともたくさん経験した。異動も経験し、その度に環境や人間関係が変わり正直つらい時もあり、何度か辞めようかと思うこともあったけれど、周りにいる先輩や同期、後輩に助けられながらなんとかここまでやってこることが出来た。子どもたちの笑顔や成長を間近に感じるこの仕事が好きなんだと改めて気づかされるきっかけにもなった。臨機応変な対応は、変わらず必要になってくるが、先輩たちに教わったことを後輩にも繋げていけたらと思う。

職員の木



園長 岡本 千恵



松原

10年間で変わったこと…

藤田 私は、布おむつから紙パンツに変わったことかな

池田 それは大きかったよね

西岡 ゴミの廃棄する量のことでもあって、友乳が法人の中でいち早く紙パンツを取り入れたよね

池田 時代の流れもあるけれど、おうちでは紙パンツが主流で保護者の方におむつカバリの説明をするのが大変だったよね

長友 昔みたいにおむつカバーがどこにでも売ってないもんね

西岡 布おむつを推奨していた都島友の会を選んでくれる保護者の方もたくさんいたけれど、紙パンツに変わったからってトイレトレーニングは乳児保育の使命やんね！(笑)

長友 今はコロナ禍で玄関受け入れになってしまったけれど、布おむつから紙パンツに変わった当初は、おむつ交換がスムーズで保護者の方も仕事へ行きやすくなったんじゃないかな

松原 私、換えられるかな…

西岡 そこは実践あるのみ(笑)大丈夫

藤田 その時に保護者の方と他愛もない話をするのも良かったよね

西岡 そのような場がなくなっても、安心して預けてもらえる園づくりをみんなできがけているよね

松原 それって、布おむつで散歩や公園に行つてたんですか?!

この10年を振り返り、職員みんなが「ゆんたく」しました。

※ゆんたく…沖縄の言葉で「おしゃべり」



ゆんたくしようよ!

西岡

藤田

池田

クラスだより

手書き



PC作成



西岡 だけど、個人情報扱いは十分注意が必要やし安全にこの先も安心して見てもらえるように続けていきたいらいいな

藤田 頼もしいね!

松原 遠くにいるおじいちゃんやおばあちゃんたちにも見てもらいやすくなりましたね

動画ならどんどんらせてください!

西岡 初めは四苦八苦だったわ

松原 私はパソコンの方が良いです

藤田 若い先生たちはパソコンに慣れているもんね

長友 手書きやったらどの先生が書いてたかすぐわかったね

池田 私たちも変わったことで衛生的に感じることも増えたよね

西岡 子どもたちの着脱もスムーズになったね

長友 そう！布おむつで行ってた時はヒヤヒヤしたよね(笑)

池田 私たちも変わったことで衛生的に感じることも増えたよね



長友

ホームページで「写真」「動画」を続々配信中

瞬間(いま)をシェアする

毎日が保育参観



ホームページを通して、すべての保護者の方と常にコミュニケーションをとることが可能です。スマートフォンひとつで園の様子や、お子さんの様子が確認できるというメリットは、忙しい保護者の方に重宝されています。通勤中にお昼休憩時に…と手軽に見ることができ、何より文章や写真だけではなく「動画」で園生活の様子、情報を発信できるのが魅力!!

昨年より、紙面ベースのクラスだよりから「友乳ダイアリー」と題して、ホームページにて続々配信中です。



園長メッセージ
90周年を迎えて

この10年間は大きな変化が数多くありました。平成24年には法改正があり、名称が『知的障害児通園施設』から『児童発達支援センター』に変わり、平成28年度には大阪市の指定管理が終了となり、この機に園名を『都島こども園』から『こども発達サポートステーションそれいゆ』に変更しました。昭和51年に建設された園舎は、令和元年12月に新園舎が完成し、新たな園生活を快適に過ごすことが出来ています。

支援事業では、就学前児童の療育支援の児童発達支援の他に、保育所等訪問支援事業、相談支援事業、大阪市障がい児等支援事業に取り組み、また、保護者から就学してからも支援を続けて受けたいと強い要望があり、2事業所を平成26年、29年に開設し放課後等デイサービス事業の支援提供を行うことになりました。

今年度は、昨年度に引き続き予想すれでなかったコロナ禍の中、感染症対策に日々追われながらも子どもたちが安全・安心できる環境の中でのサービス提供に努め、また保護者の勉強会や懇談、相談、子どもたちの園での様子などを、ホームページやズーム等使用するなど新しい試みで取り組んでいます。

これからの社会動向を取り巻く環境の変化にも柔軟に対応できるよう、今まで培ったノウハウを活かし、試行錯誤しながらも、療育理念のもと障がい福祉サービス事業に努めていきたいと思っております。



園長 仲田 恵利子

10年を振り返ると色々なことがありました。建物が新しくなり、園名もかわり、色々な設備が増えるなど、保護者や子どもたちのニーズに合わせて変化しつづけてきました。そんな10年の移り変わりをそれいゆらしく紹介したいと思います。

足型
待つ・並ぶとき、どこに立ってほしいかを伝えています



箱イス
姿勢が安定して手先の活動がしやすくなります



見てわかりやすい工夫

手順書
手洗いの順番を伝えています



スケジュール
1日の活動の流れを伝えています



タイムタイマー
活動時間を色と音で伝えています



ビーズクッション
全身が包まれ心地よい感覚で安心できます



それいゆの療育活動

発達を支える感覚あそび

トランポリン エアートランポリン
跳ぶだけでなく、歩くだけでもバランスよく全身運動ができます



ボールプール
ボールの中に埋もれることでボディイメージが意識できます



スノーズレン
心地よい感覚あそび。気持ちがホットできる空間



教具あそび
お箸を持つ練習をしたり、あそびながら手先の活動を行っています



指先や体を上手に使うために

体育活動
外部講師の方を招いて、子どもに合わせて運動あそびを行っています



スイング
ブランコと同じように揺れる遊具です。落ちないようにバランスをとることで楽しみながら体幹を鍛えます



児童デイサービス

2016年から都島児童デイサービスが始まり、2018年には児童デイサービスせいくが始めました。デイサービスでは就学前の幼児を対象とした児童発達支援だけでなく、就学児を対象とした放課後等デイサービスも行っており、子どもたちに合った学習方法を提案したり、社会のルールやコミュニケーションスキルを身につける取り組みなどを行っています。



ゲームコーナー

同窓会とお祭りが一緒になった内容の行事です。長い間続けていると、40歳の卒園生が来てくださったたり、皆さんの卒園後のお話が聞け、嬉しいひと時を過ごしています。また参加者同士で「ひさしぶり」と懐かしい人と出会えたりする機会となっています。

同園会まつり



遊びに来てくださった卒・転園された方々

他事業所出店コーナー



修了記念誌 つくしんぼ

「つくしんぼ」はそれいゆの修了記念誌です。保護者の方や職員の1年を振り返るためのコメントや、1年間の療育活動・行事の様子、子どもたちの写真をまとめた冊子です。



つくしんぼ 職員紹介ページ

都島友の会
こども発達サポートステーション
それいゆ

放課後児童クラブ 都島児童館

実は色々ありました

都島児童館の歴史

- 1951年 4月1日 都島児童館学童保育部開設
- 1990年 4月1日 大阪市の委託により「子どもの家事業」開始
- 2013年 4月1日 高倉生活クラブ 中野生活クラブ開設
- 2014年 4月1日 大阪市の市政改革により「子どもの家事業」から「留守家庭児童対策事業」へ移行
- 2015年 4月1日 友測生活クラブ開設
- 2016年 4月1日 都島生活クラブ分室2組開設
- 2016年 8月 神戸市立少年自然の家でキャンプ
- 2017年 4月1日 御幸生活クラブ開設
- 2017年 8月 大阪府立少年自然の家でキャンプ
- 2017年 7月18日 CCS(チャイルドケアシステム)の導入
- 2017年 10月 都島児童館 Facebook 開設 日々の活動内容を公開
- 2018年 4月1日 「児童館だより」を『Soramame』にリニューアル
- 2018年 4月9日 おやつ駄菓子屋システムの導入 その日のおやつを子どもが選べる
- 2018年 10月28日 第一回ハロウィンパーティ開催 参加者100人越えの大盛況
- 2019年 4月8日 高倉生活クラブ移転
- 2019年 8月 松原市少年自然の家でキャンプ
- 2021年 3月 5施設6生活クラブ 総勢204名(3月現在)

「柔軟」な対応を → 大切に → 進んできました!



この数年間で新しい生活クラブが仲間入り

中野生活クラブ



2013年開設!
桜ノ宮ピーチがすぐ近いです!

高倉生活クラブ



2019年移転!
さらに活動が広まりました!

友測生活クラブ



2015年開設!
夏の緑日が伝統です!

御幸生活クラブ



2017年開設!
アットホームな施設です!

都島生活クラブ1組.2組



2016年2クラスに分室化!
今では総勢80名以上の
大型施設になりました!

この数年間だけでも様々な変化や成長が児童館にありました。その中でたくさんの「変えてしまってもいいの？」という言葉や想いもありました。その言葉や想いを受け止め、たくさんの葛藤をしてきた上で子どもたちの最善に向けて様々な角度から柔軟に進んでくることができたこと。これが児童館の最大のアピールポイントかなと感じます。来年度に発行される90周年冊子にて、そんな児童館の成長や変化などをもっと詳しく紹介したいと思います。お楽しみに!

90周年と都島児童館のコレカラ

居心地の良いところに

昭和、平成、令和と半世紀近くを都島友の会で過ごしています。

3人の子どもたちも友の会でお世話になり、通算すると20年近くも保育園に通ったことになり。当時の学童は3年生まで。小1の壁ならぬ小4の壁も経験しました。

このコロナ禍で自粛生活を余儀なくされましたが、私自身部屋の中の「断捨離」にいそしんだものの、積み重ねられた新聞・雑誌の切り抜きファイル、かなり埃のかかった保育関係の書物を手にしては、それらの言葉一つひとつに心動かされ、私もそうありたいと奮起した当時のことが、次々と蘇ってきました。結局は何ひとつ片付くこともなく元の位置に戻すといった作業を繰り返すことになったのですが、「できる・できない」といった力の視点で子ども達の発達を見るのではなく、目に見えない心の部分を発達の中でより大切にしていかなければならない



都島児童館 館長 村上 明子

という言葉は、何年経っても色褪せる事なく私の心に深く刻まれています。一年前、こんな生活を強いられるなんて誰が予想したでしょう。当たり前な普通の生活が出来なくなる、正に「非常事態」です。

保育現場は「手洗い・うがい・消毒・換気」と呪文のように唱えながら、日々子どもたちと向き合っています。

それでも子どもたちは、そんな状況の中でであっても、自分がしたいと思うことを、友だちと工夫を凝らしながら楽しむという逞しさをを見せてくれています。

都島児童館の目的は、放課後の子どもたちの生活と遊びを通して子ども達の健全な育ちを守ることにあります。

「児童館に通う子どもたち、働く職員、保護者、児童館に通う人々みんなが、児童館が好きで、居心地のいいところだと感じてくれること」これからもそうありたい、あらねばと思っています。

ただ預かるのではなく「生活の場」の保障を

都島友の会に入ってから6年。前職はサラーマンをしていました。かつて都島友の会に母が勤めていたことがあり、幼い頃から保育と向き合う母の姿を見ていました。そのため保育に興味を持ち、またこの法人の卒園生でもあるため、都島友の会をより身近に感じることが入るきっかけとなりました。

現在は都島児童館、高倉生活クラブの支援員を担当しております。入った初年度は保育や福祉のことは、分からないことばかりでした。当初の先輩方からご指導と、保育、福祉の勉強や様々な研修と実践を経て実感したのは、単に放課後の子どもを預かる訳ではないということ。



都島児童館 植木 尚嗣

現在の放課後児童クラブは、児童福祉法を掲げ、子どもの放課後の「生活の場」を保障する上で、質的な拡充が今後も求められており、支援員の資格化や身分面でも新たな段階を迎えているということ。また独自の専門性をもち、子どもの主体的な遊びと生活の場を整え、時代の変化と共に働き方が多様化している保護者からの安心とニーズを何よりも重要と考へ日々実践を重ねています。こういった実践を活かせるのが、都島友の会という組織があり、支えてくれる児童館の職員という仲間がいるからこそ、この90周年という大きな節目を経験出来ることに嬉しく思います。

子どもと共に毎日楽しく過ごしながら子ども達の成長を身近に感じ、そして子ども以上に自分自身が楽しみながら働けるこの環境に、主体性とやりがいを感じ、これからは都島友の会、または都島児童館が100周年、それ以上を迎えて行くように励み、さらには次代につないで行くことを大切にしたいと思っています。



高齢者施設

カフェテリアひまわり



平成 31 年 OPEN



高齢施設のこの10年。

地域、利用者、職員、それぞれのよりよい生活、クオリティライフを実現するために

友渕地域在宅サービスステーション
ひまわり

特別養護 老人ホーム
ひまわりの郷

訪問介護
ひ〜ぐるま



特別 養護老人ホーム ひまわりの郷
施設長 海老子 隆一



特別養護老人ホーム ひまわりの郷



都島友の会の高齢施設の出発点は、友渕地域在宅サービスステーション「ひまわり」から始まります。平成11年2月のことです。続いて、平成14年4月に特別養護老人ホーム「ひまわりの郷」が開設されました。そして昨年、令和2年4月には訪問介護「ひ〜ぐるま」がオープンしました。いずれも地域の高齢者介護の要望に応えた施設の開設といえます。

友渕地域在宅サービスステーション「ひまわり」では、デイサービス（通所介護）やケアプランセンター（居宅介護支援）などのサービスを通して、地域高齢者の生活を支援してきました。こうした利用者の方々が、やがて特養「ひまわりの郷」のショートステイ（短期入所）や入所につながっていくことから、2施設の緊密な連携も図られてきました。

特別養護老人ホーム「ひまわりの郷」では、「看取り介護」の導入や、地域の人々との交流をめざした「カフェテリアひまわり」もオープンしました。また老朽化への対応で、大改修や機器の取り換えも行いました。いずれにしても、これらは職員の意欲の結晶、自分たちの施設を、もっと地域に開かれた高齢福祉の拠点として発展進化させていきたいとの職員の気持ちが原動力になっています。実際、開設時の1期生職員が、今なお多く在職しているのも大きな特徴です。

そんなことを物語るエピソードを2つご紹介します。

職場にリターンする職員のことを「もとしよく」と法人では呼びます。ある「もとしよく」さんに「なぜ、いったん離職したのに帰ってきたのか？」と尋ねると、「二人一人の問題意識が他とは違いました。ひまわりの郷では、コスト意識に至るまで職員が自覚しています」との回答でした。

もうひとつ。昨年来のコロナ禍の中、感染がいつ施設に起こるとしても、場所と人をあらかじめ決め、感染が広がらないための準備体制をとりました。その時、コロナ感染症棟の介護にあたる予定の職員を集め、防衛体制の説明したところ、その場にいた介護職員の誰もがいやな顔も見せず、皆指名されたことを誇らしい態度で受け止めてくれました。施設長としては感極まった瞬間でした。

さて昨年新たに創設された訪問介護「ひ〜ぐるま」。「ひ〜ぐるま」とは沖縄の方言で、「ひまわり」の意味です。訪問介護とは、訪問介護員（ホームヘルパー）などがご自宅に訪問し、日々の介護や日常生活上の世話や必要なサービスを行うもの。食事や排泄などの介助を行う「身体介護」、調理や掃除などを行う「生活援助」をはじめ、高齢者の方がご自宅でより良い生活（ケアリテイティブ）を送るための様々なアドバイスをします。

法人の高齢施設、デイサービス（通所介護）やケアプランセンターを行う友渕地域在宅サービスステーション「ひまわり」、高齢者の方々の「終の棲家」としての「ひまわりの郷」、そして訪問介護「ひ〜ぐるま」。この3つの施設が連携し固く結びつくことで、念願だった法人としての高齢者福祉の理想的な姿、トライアングルが形作られました。



友渕地域在宅サービスステーション
ひまわり



令和2年 OPEN



訪問介護
ひ〜ぐるま

比嘉正子地域貢献事業研修センターは これからも『心』の居場所でありたい



いいね!文庫



ひだまり食堂

平成23年、法人の独自事業「子育て・障がい・介護なんでも相談室」を開設。更なる充実を目指す平成25年には地域とともに歩み地域に貢献する社会福祉活動を実践する『比嘉正子地域貢献事業研修センター』を開設しました。主な事業は『相談事業』です。最近では「先が見えない」、「終わりのない」深刻な相談や精神疾患や生活困窮問題が増加。問題に苦しんでいる人は「解決の糸口がわからない」「どこに相談に行ったらいいか、わからない」「家に閉じこもっている...でも、出たい」「心を閉ざしている」など問題はひとつではなく幾重にも重なり合っています。

創設者比嘉正子の志を継ぎ、様々な問題を抱え苦しんでいる人たちに寄り添い、専門機関への橋渡し役となり、より敷居の低い地域の相談窓口として「心」の居場所づくりと切れ目のない支援（ネウボラ）を目指しています。

- 2011.10 (平成23年)
 - ・「子育て・障がい・介護なんでも相談室」開設
 - ・講座講演実施
- 2012.5 (平成24年)
 - ・災害支援「11ね!物産展」スタート
- 2013.10 (平成25年)
 - ・比嘉正子地域貢献事業研修センター開設
 - ・市民後見人講座(大阪府福祉基金助成金事業)
- 2015.4 (平成27年)
 - ・ひだまり食堂:スタート
 - ・介護職員主任者研修:開講
- 2016.4 (平成28年)
 - ・アウトリーチ型研修:開講
- 2018.4 (平成30年)
 - ・保育士等キャリアアップ研修:開講
- 2020.4 (令和2年)
 - ・コロナ緊急事態宣言発出
 - ・全ての研修延期 延期
 - ・ひだまり食堂お休み



絵本研修



介護職員初任者研修



キャリアアップ研修

比嘉正子地域貢献事業研修センター HIMAWARI.NET 連載こらむ

ネットのきもち 16

我が家の食卓には時々給食のメニューが登場する。寒い日にぴったりの『梅焼きの入ったクリームシチュー』。家族には不評「なんでもクリームシチューに梅焼き🍡なん!?」、ヘルシーな「ひじき入り豆腐ハンバーグ」さっぱり味でコスパのいい「もやしとさつま揚げの酢の物」孫は保育園の「カレー、めっちゃおいしい!」と挙げればきりが無い。

職場でも時々給食メニューのことが話題に上る。人気No.1は魚のピラフ☆、大阪人特有のお好み焼きに白ご飯、おなかチャーンにクリームシチュー、そしてお散歩に欠かせないのが「キリンパン」美味しかった〜(でも買ったやつ)。

その昔二十歳の私は、都島友の会の給食室から炊き上がる白ご飯の匂い、うどんの出汁、かきたま汁の卵のフワフワ...に幸せを感じたことを覚えている。

10年前、海外研修で訪れたオーストラリアのパスで見学した保育施設は玄関入ってすぐにオープンキッチンがあり、食材も調理員さんの顔も見える。トン、グックツ、シャカシャカ...料理をする音、おいしいそうな匂いも漂っていた。思いつき子どもたちの五感が刺激され、さぞかしランチタイムが待ち遠しく感じるのだらう。

近年、子どもを取り巻く状況も変わった。家族みんなで食卓を囲むことも少なく、子ども一人でご飯を食べることも...。親も余裕がなく、たまには手抜きもしたい。法人でも昨年からコロナウイルス感染症対策に苦慮し、保護者は園内に入れない、行事のやり方、給食時はテーブルの間に衝立、しゃべらないで食べる。一方、テレワークで家族が揃って食べる機会が増えたことや不要不急の外出自粛でデリバリーが増加しているとも伝えられている。

保育指針には『子どもは、毎日の保育所での食事を通して、食事をつくる人を身近に感じ、つくられた食事をおいしく、楽しく食べ、それが「生きる」ことにつながっていく。それを実感できる環境を構成することが望ましい。』

- ・お腹がすくリズムのもてる子ども
- ・食べたもの、好きなものが増える子ども
- ・一緒に食べたい人がいる子ども
- ・食事づくり、準備にかかわる子ども
- ・食べものを話題にする子ども

保育所における食育は、五つの子どもの像の実現を目指して行おうとある。

子どもたちが家族、仲間と楽しく話しながら食べる。日々の食事からどのようなものが育まれるのか?誰と?どのようにして?

『もうひとつの我が家』でありたいと歩んだ都島友の会の創立90年にあたり、「食べる」こと「生きる」ことを考えてみたい。そして、今の子どもたちが大きくなった時に聞いてみたい、「給食で何が好きだった?」

(地域貢献支援員 岡本和江)

創立90周年を迎え、その歴史の中の一員であることをうれしく思います。

この友の会で素晴らしい仲間に出会い、数々の忘れられない子どもたちと保護者の方々に出会いました。振り返るとその一つ一つに思い出があり、心痛んだことや心温まったこと、そのすべてが懐かしく思い出されます。

これからの出会いを楽しみにしながらも、今まで出会ったみなさんがいつでも帰ってこられる温かいhomeであり続けたいと思います。

都島児童センター
守屋美智子



副園長会

都島友の会

90周年を迎えて



五月会

創立90周年を迎える節目の年に立ち会えることに喜びを感じています。当法人が築きあげてきた歴史の重みを感じるとともに、これから未来に向かってたくさんの方々と一緒に歩んでいけることに期待です。

私たちが出会ってきた子どもや保護者、仲間...たくさんの方に支えていただいたことに感謝の気持ちを持ち続け、これから出会う方々により安心してご利用いただけるように教育・保育内容の充実を図り当法人が一層発展できるように職員一同力を合わせていきたいと思えます。

成育児童センター 錦城栄旭



主任会

五月会とは、園長を始め、副園長、主任のサポート役を担う各園のリーダーが、次期管理職候補として同じ階層の職員同士が集まりリーダー・専門職に求められる知識や技術を話し合い勉強する場です。他園の職員との交流を深めながら、互いに意識を高め、また意見や情報交換も行っています。

私もリーダー・専門職にふさわしい知識や技術の習得に向けて日々、切磋琢磨して頑張りたいと思えます。

成育児童センター 清水克倫

「ひまわり会」



ひまわり会が発足以来、職員間の交流・親睦を図ることを目的とし、法人全体でのビールパーティーや忘年会、レクリエーションとしてヨガなど心身のリフレッシュも毎年行ってきました。90周年を迎える今年度はコロナ感染症が拡大することによって思うように活動できない状況となりましたが、そのような状況だからこそ、例年以上に交流の大切さを考え、またひまわり会の役割の重要性を感じる年となりました。これまでも、そしてこれからも職員の職員による職員のためのひまわり会であり続けていきます。

桜宮児童センター 米田 正和

平成19年に初刊した法人会報誌『ゆんたく』。『ゆんたく』とは初代理事長のゆかりある地、沖縄の方言で「楽しくおしゃべり」という意味があります。初刊行から14年経つ現在も、皆さんにゆんたくしているような温かな時間をお届けできるよう…という思いを大切にしています。毎号ごとに友の会の歴史が刻まれており、そんな意義ある編集に携われることを嬉しく思います。そして、今の友の会を築いてこられた諸先輩方の思いを受け継ぎ、次につないでいかなければという思いを持ち、これからの友の会の歴史をゆんたく編集委員として、刻んでいきたいと思えます。

友瀬児童センター 林 大介

「ゆんたく委員会」



「リスクマネジメント委員会」



リスクマネジメントについて大切なこと、知識、データ、経験、分析、連携…。様々な大切さの中でも何か一つと考えるなら、「子どもの命を預かっているという意識」、その継承だと思えます。子どもと過ごす楽しい毎日、明日はどんな保育活動をしようか考えたり悩んだり、その何もかもが「安全」があつてこそ。法人の先輩たちが経験し蓄積してきた学びや実践を私たちがきちんと受け継ぎ、今度は100周年に向かう後輩たちに、それをいっそう継続発展させて伝えること、90周年を迎える今の私たちの大切な役割だと思えます。

都島乳児保育センター 山下 知子

「バレーボール部」
広がる!繋がる!!
ひまわり会バレーボール部の魅力



昨年度の大会は3位!
次は優勝するぞ☆

1. 心も身体もリフレッシュ☆
仕事への活力に繋がります!
2. 法人内の他園の職員と関わることで、
保育の幅を広げます!
3. スポーツはチームワークが大切!
それは、保育にも繋がります。



友瀬児童センター 中田 久美

都島友の会には、バレーボール部があります。その歴史は長く、なんと発足したのは、20年以上も前のこと!メンバーが入れ替わりながらも、年齢・役職問わず、和気あいあいと青春を楽しんでいます。特に活動が盛んなのは、夏!毎年、参加している大阪民間社会福祉事業従事者共済会主催の施設職員バレーボール大会に2チームで参加しています。その日の為に、都島区のママさんバレーボール部の方々と練習試合をしたり、地域の体育館をお借りして練習したりと、毎年、目標に向かって頑張っていたのですが、今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で大会は中止に…。集まることも難しく、練習もできないままではあります。今はひしひしと闘志を燃やしながらいながら、体力を温存しています。1日でも早く日常に戻り、そのパワーが発揮できる日を楽しみにしています。

都島友の会

90周年を迎えて

「看護師連絡会」



現在、都島友の会の保育施設に勤務する看護師は9名在籍しています。保育施設の看護師は、病院とは違い医療面で問題が生じた時に相談できる人がおらず、不安に感じることが度々ありました。このことから平成21年より都島友の会では、各園の看護師が1つの場に集まる保健衛生部会(平成27年より『看護師連絡会』と名称を改める)を発足し、各園の保健的な情報交換や問題を話し合う機会を作ってきました。新型コロナウイルス感染症が世界的に大きな脅威をもたらす中で、保育の現場では様々な変化を求められています。看護師1人では困難なことも、各園の看護師同士の繋がりを大切に、『安全で安心して過ごせる環境作り』を最優先とし、協力して感染症対策に挑めたことは、大きな強みであると感じました。私たちがこれまで築き上げてきた保健活動を今後も継続していけるように、専門職としての資質を高め医療の進歩や時代の変化にも速やかに対応していきたいと思えます。

友瀬児童センター 中村 智子

地域を支え、地域とともに生きる

本部事務局長 寄瀬 博光

都島との縁

私は大阪市職員として36年間のうち32年間は、大阪市の広報（PR）・イベント関係の業務と、病院経営の業務に従事した。行政職の公務員としては異色の経歴である。しかし、常に新しい事業との巡り合わせと、チャレンジであった。

平成25年5月から、法人本部事務局にお世話になつている。都島との縁は、平成2年から、市立総合医療センターの建設に2年6か月、管理運営に延べ6年、計8年6か月。そして都島区役所に4年。この間、都島の街を知り、歴史を知り、多くの地域の皆さんと知己を得た。36年間の3分の1、12年6か月を都島の地で仕事をしてきたことが、地域の社会福祉を支える都島友の会に繋がったのではないかと考えている。

都島友の会の印象

都島友の会に就職して8年近くになるが、当初より感心していることは、90年になる永い歴史と伝統の上に立ち、地域の皆さんの信頼をいただきながら、都島の社会福祉をリードしてきていることに尽きる。

それは、都島友の会の事業を具体化する職員の熱意と、スキルの高さから来るものであると思うのである。各園が平成27年から毎年、提出した保育実践研究・報告は、日本保育協会から奨励研究賞や奨励賞を受賞するなど、高い評価を受けている。また保育者としての知識・技量だけでなく、日々の研鑽と周到な準備を怠らないことは、ふれあい運動会・生活発表会等での子どもたちの演技に対する保護者の皆さんの感動を見ていると、よく理解できる。

もうひとつ、都島友の会は社会福祉法人としての使命を果たすべく、それぞれの時代の要請に応じて先進的な取組みを行ってきたことである。近年では、比嘉正子地域貢献事業研修センター「ひまわりネット」の開設がその例である。

改正福祉法の施行は、社会福祉法人のあり方に大きな変化をもたらすこととなった。

都島友の会でも、法人の憲法ともいえるべき新定款の作成・認可とともに、関連して評議員選任委員会規則など新規規程の整備、経理規程の改正等を行った。また新定款に基づく新評議員、新役員を選任という体制づくりがなされたところである。

このような新制度や改革に関与することを通じて、社会福祉の実践について、少しは理解が深まったのではないかと考える。

90周年に向けて施設整備

法人の各施設は、経年劣化のため建替えや環境向上のための整備が、ここ10年の課題であった。都島児童センターが平成25年9月に建替新築が竣工した後、平成30年3月に桜宮児童センターの増築及び大改修工事、6月に友淵児童センター園舎改修工事が完了した。

ひがみや児童センター・こども発達サポートステーションそれいゆの建物は、大阪市から有償にて取得の後、平成30年度に建替新築工事に着手し、令和元年12月に完成した。令和2年4月には、都島乳児保育センターが都島児童センター近隣に移転新築。都島第二乳児保育センターは令和元年2年度で改修工事を完了した。また特別養護老人ホームひまわりの郷では、平成30年度に施設改修及び地域交流の場としても利用していた「カフェテリアひまわり」を設置した。

相次ぐ整備のため、事務局は申請事務、設計業者との協議、工事入札・施工管理等、毎年のごとく業務に追われたことになったが、これから10年、20年、30年と将来を見据えた子どもたちや利用者にとって、安全で快適な環境整備がなされたと考えている。

社会環境が大きく変化した、福祉ニーズが多様化・複雑化したといわれるが、その実態を肌で感じるのが現場である。目の前のことにいかに対応していくのか、情勢の変化を受け止め、どのように対応するのが適切なかが常に求められている。都島友の会が持つ経験とノウハウにより、行政にはない役割を果たしている。このことがより一層地域の信頼をいただき、結びつきを強くしていると確信している。

法人本部事務局での業務

都島友の会は、児童施設（13）・高齢者施設（2）ほか、収益事業・独自事業を運営する大規模な社会福祉法人であり、本部事務局が設置されている。理事会の意思決定に基づき、法人全体や各事業の計画的な進捗管理を行っている。経営課題や事業運営上の課題についての情報を収集・分析し、理事会・評議員会などに諮る経営企画業務と、各施設の経理・給与・社会保険事務などを集約処理する総務事務を担っている。

私は、永年の病院経営の経験はあるが、社会福祉について行政的な知識は持っているものの、実践については素人である。本部職員や各施設長のお助けをいただきながら、何とか実務を遂行してきた。

8年間の中、平成27年4月に子ども子育て支援新制度がスタート、介護保険法の改正、社会福祉法人新会計経理事務への移行、また平成29年4月には改正社会福祉法の施行などがあり、次々と変革の嵐が吹いていた。

このことが、私にとっては幸いなことであった。これまでの事業内容とともに、新たな制度について、一から勉強するまたとないチャンスであったように思う。子ども子育て支援新制度では、幼保連携型認定こども園への移行準備をはじめ、保育園ほか児童施設の運営規程を整備したことが、以後の業務理解に寄与したと思う。

これからの都島友の会

初代理事長比嘉正子先生が創設した都島友の会は、先生の地域福祉にける熱い思いを体現すべく、繋ぎ繫いで、ここ都島の地で地域の皆様とともに歩んできた。

近年、様々なジャンルの方が、この福祉サービスの分野に参入してきている。競争の時代、選ばれる時代となってきたともいえる。

90周年を迎えた都島友の会が引続き100周年に向け、これからも地域福祉の雄として、地域の皆様の信頼を得続けるためには、職員一人一人が福祉の心を持ち、子どもたちの未来や利用者、地域の幸せ実現のため、努力を惜しんではならない。そして都島友の会ならではの福祉サービスを提供することが必要であると思う。とりわけ施設を管理する立場にあっては、率先垂範した行動をお願いするものである。

私は、縁あって都島の地で併せて20年近く仕事をさせていただいている。都島を愛する一人として及ばずながら、職員の皆様のお力添えをしまいたいと思う。



